

日本語概説Ⅱ

2単位 (選択) 2年 (後期)

仙波 光明・教授 / 社会創生学科

【授業目的】古代から近現代までの日本語にどのような変化が、なぜ起こったのかについて、基本的なことがらを理解する。

【授業概要】古代から近世までの日本語に関して、日本語史・言語変化の観点から重要と思われる話題を選び、なぜそのような変化が生じたのか、そのことがどのような方法で明らかにできるのか、ひとつの変化が他の面にどのような影響を与えるのか、といったことを見てゆく。

【キーワード】上代特殊仮名遣、仮名、ハ行転呼音、連体形終止法、係り結び

【履修上の注意】教科書を利用するが、教科書に書かれた順番で授業を進めるのではない。あらかじめ指定するところは必ず予習することが望ましい。また、国語科の教職免許を取得したい学生は、必ず受講すること。(受講生数および構成によっては、進め方を変更することがある。)

【到達目標】日本語史上の重要なトピックを理解し、言語変化を科学的に考える態度を養う。

【授業計画】

1. 文献以前の日本語 (日本語の系統など)
2. 古代日本語 1:奈良時代 (「上代特殊仮名遣い」と呼ばれる現象)
3. 古代日本語 2:奈良時代 2(母音体系と文法体系他の関係)
4. 古代日本語 3:平安前期 (平仮名・片仮名の誕生、いろは歌)
5. 古代日本語から近代日本語へ 1(ハ行子音の変遷)
6. 古代日本語から近代日本語へ 2(ハ行子音の変遷の影響 仮名遣いの発生)
7. 古代日本語から近代日本語へ 3(定家仮名遣いとアクセント)
8. 古代日本語から近代日本語へ 4(「音便」とは何だったか)
9. 古代日本語から近代日本語へ 5(活用体系の変遷)
10. 古代日本語から近代日本語へ 6(連体形終止法の確立)
11. 古代日本語から近代日本語へ 7(係り結びの消滅 1)
12. 古代日本語から近代日本語へ 8(係り結びの消滅 2)
13. 古代日本語から近代日本語へ 9(助動詞の衰退 1 推量の助動詞)
14. 古代日本語から近代日本語へ 10(助動詞の衰退 2 時の助動詞)
15. 試験
16. 補足など

【成績評価】平常点 40%、試験 60%の割合で評価する。平常点には、出席状況だけでなく、何回かの小テスト (または中間テスト) を含む。

【再試験】再試験またはレポート

【教科書】沖森卓也編『日本語史』(おうふう)1900円を予定。

【参考書】『日本語の歴史』(1~7巻)平凡社ほか、随時紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218914>

【連絡先】

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL